

12月23日(月曜日) 保育園での美術部による大型紙芝居の読み聞かせ
西岐波中学校



西岐波保育園で西岐波中学校美術部の生徒が大型紙芝居の読み聞かせを行いました。この夏に、たちばな幼稚園で行った時は、3年生を中心に全学年で実施しましたが、今回は3年生が部活動を引退したので、初めて2年生を中心に1・2年生で役割分担をして実施しました。放課後に西岐波保育園を訪問し、5歳児を対象に部員が制作した「いかのおすし」の大型紙芝居の読み聞かせを行った後、シルエットクイズや早口言葉、じゃんけん大会などを行い園児と交流しました。

園児たちは一生懸命に中学生の話を聞き、「楽しかった」「いかのおすし覚えた」といった園児たちの反応を見て、防犯のメッセージが伝わり、また楽しんでもらったことに美術部の生徒たちも刺激を受けていました。

このような中学生と園児との双方にとって互恵的な交流が、多くの地域にも広がることを期待したい取組です。

12月21日(土曜日) 継続実施されている門松づくりボランティア
楠中学校



楠中学校では、平成27年度から船木地区の門松づくりボランティアとして中学生が参加しています。今年度も6名の生徒が参加しました。まず、地域の方から門松の由縁などのお話がありました。単に作業をするのではなく、日本の文化を継承したいという地域の思いからです。本来なら竹や松等を切るところから一緒に作業を行う予定でしたが、当日は天候不順のため飾りつけだけとなりました。

中学生が参加すると活気があり、にぎやかで、地域の方々にとって張り合いや元気がもらえてとてもありがたいと好評でした。参加した生徒は活動後に、「自分たちが役に立っていましたか」「もっとこうしてほしいことはありませんか」と世話役の方に問いかけて自分たちの取組を振り返っていました。

この門松づくりは、日本の伝統ある行事を大人から子どもに伝える場になり、世代間の貴重な交流の場にもなっています。

12月19日(木曜日) 地域の方と「あいさつ」について学び合い 原小学校



原小学校2年生の道徳科の学習では、見守り隊や人権教育推進委員、ふれあい活動推進員等地域の方14名をゲストティーチャーに迎え、一緒に「あいさつ」について考えました。グループごとに、「挨拶すると、された人はどんな気持ちになるかな」「実際にどんな挨拶の仕方したら、元気で嬉しくなるのかな」などを考え実際にやってみました。

地域の方の感想には、「見守りを楽しく続けようと思える授業でした」「日頃からお互いを認め合うことを大切にされているのが分かりました」「私たちも元気をもらえる授業で参加してよかったです」とありました。

児童と大人と一緒に考え、思いを伝え合い、挨拶について学び合うことは、互いを尊重する心を育む貴重な経験となり、児童にとっても大人にとっても次の日からの挨拶が、さらによりよいものになっていくことでしょう。

12月12日(木曜日) まるっと!黒石!～「大人の学び場」～
黒石小学校



黒石小学校では、「大人の学び場」として、保護者や地域の方へ出前授業や英語セミナーの案内をしています。今回は、「まるっと!黒石!」と題して大人を対象とした『英語セミナー』、3年生の出前授業の『石炭学習』、6年生の出前授業の『防災学習』の3つの授業を同じ日に実施し、保護者や地域の方が多数参加しました。

これら「大人の学び場」はsigfy(学校連絡サービス)で案内し、googleフォームで回答を集め名簿を作成して実施しています。この仕組みにより、広く案内することができ受付にかかる時間も短縮されるなど、業務の負担軽減を図りながらより多くの方々の参加を可能にしています。

12月1日(日曜日)、12月7日(土曜日) 住みよい地域づくり「ピカピカ大作戦」
桃山中学校



桃山中学校では、4年前の学校運営協議会の熟議の中で、「桃山中学校区を住みよいきれいな地域にするために、ボランティアで清掃活動を行いたい」という生徒からの意見に委員も賛同され、生徒と環境衛生連合会の方も加わり「ピカピカ大作戦」の実現に至りました。この活動は毎年恒例となっており、年々参加を希望する中学生の数も増えています。12月1日(日曜日)の小羽山地区での活動では、小学生の姿も見られました。12月7日(土曜日)の新川地区の活動では、ごみの分別について地域の方から学ぶ時間を設けるなど環境に関する有意義な学習の場にもなっています。

地域のよりよい環境づくりに向けて地域貢献したいとの中学生の思いから、地域や小学生も巻き込み継続・発展した活動となっています。

12月3日(火曜日) 「チャレンジ目標について」5・6年で熟議
船木小学校



船木小学校の第3回学校運営協議会では、「チャレンジ目標について」5・6年生と委員とが熟議をしました。まず、今年度6年生が考え取り組んできたチャレンジ目標の振り返りをした後、来年度のチャレンジ目標について5年生から提案がありました。

児童はそれぞれ委員会ごとに、学び(知)・心(徳)・からだ(体)の三部会に分かれ、今年度のチャレンジ目標の(知)『よく聴いて たくさん発表 船木っ子』、(徳)『時計を見て てきばき動こう 船木っ子』、(体)『外に出て いっぱい遊ぼう 船木っ子』について振り返り、次の新たな目標としてあいさつや食事、健康に関する候補を挙げていました。委員の方からは「自分たちならどうする?」という質問や、「子どもたちが頑張っているから大人も頑張ろうと思う」という意見などがありました。

チャレンジ目標を5・6年生と一緒に考えることで、学校をより良くしようという意識がしっかりと6年生から5年生へと引き継がれています。

12月1日(日曜日) 万倉地区シニアスマホ教室ボランティア!
楠中学校



万倉ふれあいセンターで、万倉地区社会教育推進委員会が開催するシニアスマホ教室の運営を手伝う中学生ボランティアとして、楠中学校から4名の生徒が参加しました。シニアスマホ教室には地域住民11名が参加、平均年齢は85歳で、最高齢の方は92歳でした。日頃は習う側の生徒ですが、この日は教える側で、どの生徒もお年寄りの方に優しく声をかけたり、質問に丁寧に答えたりしていました。お年寄りの方も「分かりやすかった」と喜んでいました。参加した生徒たちも、「人に教えることに自信がもてた」「地域貢献ができたことを誇りに思う」「次も声をかけてほしい」といった感想で、生徒にとっても日頃できない良い経験となりました。

11月30日(土曜日) うべKITAまつりに授業日として参加！
厚東川中学校



厚東川中学校は、万倉ふれあいセンターとこもれびの郷を会場に開催された第2回うべKITAまつりの当日を授業日とし、「夢太鼓」演奏やボランティア活動（職場体験を含む）を行いました。

10時からの90分間に、会場内5カ所のブースにて3年生をリーダーとした縦割り班で活動しました。ブースでは、野菜・北部特産品の販売や、警察・消防等の車両の展示がされており、来場者が見学する際の案内や、小さな子どもが警察や消防の制服を試着して撮影する際のお手伝いをしました。会場では「美味しいですよ」「お弁当はいかがですか」「〇〇を体験していきませんか」など、生徒はしっかりと声をかけて、任された責任を果たそうと一層張り切っていました。その後、厚東川中「夢太鼓」を披露し、多くの方からたくさんの拍手をいただきました。当初はまつりでの「夢太鼓」演奏だけを依頼されていましたが、これをボランティア活動とキャリア教育の機会ととらえ地域貢献に取り組んだことで、生徒の地域貢献意識が向上し、自己肯定感も高まりました。

11月29日(金曜日) 宇部商業高校とのコラボ授業 厚南小学校



厚南小学校の児童と宇部商業高校の生徒による宇部の特産物を使った商品開発のコラボ授業が行われました。4年生の児童が「宇部らしさのある食べ物」を考え、高校生が商品化するというもので、子どもたちにとっては大変夢のある活動です。子どもたちは、万倉ナスにそっくりな「なすカステラ」やキウイ・小野茶・西岐波みかんを使った「宇部緑パフェ」など、3年生の社会科で習った宇部の特産物を使った商品を一人ひとりがプレゼンし、高校生に感想をもらいました。今後は、高校生が商品化に向け取り組んでいきます。児童の発想を高校生が練り上げ商品化する活動は、ゴールが明確で希望や期待が膨らみます。高校生にとっても、マーケティングを実践する機会となり、お互いにWin-Winの関係を築くことのできる有意義な協働活動になっています。

11月23日(土曜日) ご高齢の方に「お元気注入券」(手紙)を届けて交流! 上宇部中学校



上宇部中学校では、学校運営協議会で協議を重ね、生徒会「地域連携部」として、一人暮らしの高齢者に「お元気注入券」（手紙）を届ける活動に取り組みました。校区内には一人暮らしの高齢者の多い地域があるという課題を知り、夏休みに生徒が上宇部と琴芝の各ふれあいセンターに相談して自治会へ呼びかけ、配り物と一緒にクイズやアンケート（困ったことや手伝ってほしいこと）も載せた手紙を届けることにしました。

【ふるさと愛し隊】を募り、1回目は鎌田地区16軒を訪問しました。

「お元気注入券」の手紙の一例です。「私は受験生ですが、～中略～いつでも上宇部中学校の生徒をたよってください。お体に気をつけてすごしてください。何かお役に立てることがあれば、お手伝いしたいです。地域のことなどで困っておられることや、中学生が手伝えること、できることがあれば教えてください。上宇部中学校 【ふるさと愛し隊】3年生」

自治会長さんからのお礼文です。「生徒さんとの同行訪問は、素晴らしい成果があったように思います。～中略～お年寄りの中には、生徒さんの訪問を受けて涙ぐんでいる方もいらっしゃいました。地域にはやはり若い力が必要です。改めて上宇部中学校の【ふるさと愛し隊】の活動に敬意と感謝を述べさせていただきます。」

また、一人暮らしの高齢者や家族の方からのお礼の手紙も届いています。

「将来の上宇部・琴芝地域を担う人材の育成」「地域と学校を元気にし助け合いの心情を高める」「中学生が地域の人々のつなぎ役」という目的で、自らが志して集まった【ふるさと愛し隊】の活動を通じて、地域を愛し、地域を元気にする生徒たちが着実に増えています。

11月18・19日(月・火曜日)高校生と一緒に“届けよう服のチカラ”プロジェクト
見初小・神原中学校



神原中学校では、宇部中央高校ボランティア部の活動の一つである「“届けよう服のチカラ”プロジェクト」（ユニクロ・ジーユー）に3年続けて参加しています。この日は中学生ボランティアが宇部中央高校に行き、高校生と協力しながら中学校と高校で回収した子ども服の古着をサイズや種類によって仕分け梱包をしました。

また翌日には、見初小学校に高校生が来校し、小学校で回収した子ども服の古着を仕分け、梱包をしました。小学生ボランティアは仕分け方法を高校生に教えてもらい、一緒に作業をしました。昨年度からこのプロジェクトに参加して服の回収はしていましたが、高校生と一緒に作業するのは初めてのことでした。

「“届けよう服のチカラ”プロジェクト」を通して小・中学生と高校生が交流し、ともにボランティア活動に取り組むことで異校種連携が進んでいます。

**11月19日(火曜日) 学校運営協議会委員もにっこり！玄関を彩る飾りたち
西宇部小学校**



西宇部小学校では、西宇部ふれあいセンターまつりで展示されていた地域の方の作品「糸手毬」や「キャンドルアート」などの作品を展示しています。

この取組は令和5年度から行われており、地域の方の作品に感銘を受けた教頭が、作品の出展者の方に11月に実施する西小まつりでの展示を依頼し実現しました。

作品は「西小まつり」の日当日だけでなく、2学期いっぱい約1か月間玄関ホールに展示しています。

学校に来られた方や児童が作品を見学し、心を和やかにしています。

**11月19日(火曜日) 東岐波ふれあいセンターから地域へ情報発信！
東岐波小・中学校、東岐波ふれあいセンター**



東岐波小・中学校では、学校行事や地域連携の取組について写真等を使って掲示物を作成し、学校やふれあいセンターに掲示することで広く地域住民に情報を発信しています。ふれあいセンターには、訪れた地域の方や子どもたちが見やすいように2階の少し広いスペースに2枚の地域掲示板が去年設置されました。

地域掲示板の管理は、教職員ではなく学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員が行っています。東岐波中学校では、掲示物の作成は教職員ですが、今年度の学校運営協議会の熟議で「ふれあいセンター地域掲示板の活用方法」が話題になり、学校運営協議会の情報発信部会が掲示を担当することになりました。東岐波小学校では地域学校協働活動推進員が学校から素材の写真などを提供してもらって掲示物を作成し、地域掲示板に掲示しています。掲示する作業を地域の方に委ねている分、教職員の負担軽減につながり業務改善の一助になっています。

学校内の掲示物は来校者へ、ふれあいセンター内での掲示物は地域住民への情報発信となり、コミュニティ・スクールへの関心を高め、“次の機会に協力してみようか”と興味をもってもらうことにつながっています。

11月16日(土曜日) 地域貢献活動～ふるさとをきれいに！
西岐波中学校



西岐波中学校では、毎年全校生徒が地域貢献活動として校区の清掃活動を行っています。今年も地域の環境衛生連合会の方が加わり、生徒が住んでいる西岐波小学校区と常盤小学校区に分かれて、落ち葉や枯れ木などを中心に集めました。

地域と連携して自分の住んでいる地区をきれいに今回の清掃活動で、今まで以上に地域のことを知るとともに、地域貢献意識を高めることができ、とても有意義なものとなりました。

11月16日(土曜日) 創立150周年記念オータムスクール2024(収穫祭)
厚東小学校



厚東小学校では平成30年度から、毎年オータムスクールを開催しています。この集会は、6月に苗を植え、11月にもち米を収穫したことを祝う「収穫祭」の意味合いもあります。今年度は、創立150周年記念バージョンとなりました。

開会・閉会セレモニーは、運営委員会の児童の司会で進めました。開会セレモニーのあと、餅つきが行われました。前日から、多くの、保護者・地域の方にご協力いただき、当日も、子どもたちは餅つきの順番が来る前からワクワクした様子でしており、「よいしょ」のかけ声や地域の方の迫力のあるテンポのよい餅つきの様子も見られ楽しく盛り上がりました。児童からは、「初めての餅つきで、とても楽しかった」「お餅にあんこを包むのが楽しかったのでまた、作りたい」などの感想がありました。

また、各学年の教室で児童が主体となって取り組んだお店市では、来られた方に楽しんでもらおうと「ピンポンゲーム」や「秋の虫のクイズ屋さん」などの企画を考えました。児童は、多くのお客さんが来られたことに驚きながらも、やる気に満ちあふれ、張り切ってお店に取り組んでいました。

そのあとは、竹太鼓演奏、創立150周年記念餅まきと続き、下学年・上学年への餅まきの後には、全校児童から地域の方への感謝メッセージ付きのお餅を大人に向けて6年生児童がまきました。

地域・保護者の支援と協力を得て毎年継続して実施されている収穫祭は、児童を主体にしながら地域との温かい交流を図る大切な活動となっています。

11月14日(木曜日) 熟議で P.B.L (プロジェクト型課題解決研究) 最終回 !
万倉小学校



P.B.L（プロジェクト型課題解決研究）とは、学生自ら問題を見つけ、さらにその問題を自ら解決する能力を身につける研究を意味します。山口大学国際総合科学部に所属する5人のメンバーが、6月～11月にかけて、万倉小の5・6年生の児童と、「私の理想の万倉」をテーマに全5回の授業を行いました。万倉にあったらよいものや場所、建物などを友達や地域の方々からアドバイスをいただきながら考えた結果、想像力とユーモア溢れるアイデアがたくさん集まりました。今回はその最終回で、熟議を行いました。山口大学の学生さんと学校運営協議会委員の方と子どもたちが、「万倉の未来について考えよう」をテーマに、和気あいあいながらも真剣に熟議を行いました。大人の中でも、しっかりと自分の意見や考えを述べる児童の姿が見られました。キャンプ施設や図書館、果樹園、防災公園、足湯などワクワクする提案に、大人が質問をしても「ロボットを使います」など未来志向な子どもたちの答えが返され、会場を沸かせていました。楠中校区の教育目標「地域を愛し、人を大切に作る子ども」は、確実に育っています。

11月12日(火曜日) 全校児童が参加した熟議を実施！
二俣瀬小学校



二俣瀬小学校では、小規模校の利点を生かして、全校児童が参加した熟議を実施しました。地域の大人も、学校運営協議会委員や社会教育推進委員会委員だけでなく、保護者や学童保育、市環境政策課、地元企業、ふれあいいきいきサロン等の総勢24名が参加しました。まさに地域丸ごと熟議になりました。

熟議のテーマは、「こんな生活・総合をやりたい！～二俣瀬・地域の専門家に相談しよう！～」です。二俣瀬地区の特色を生かした「生活科・総合的な学習の時間」の取組について、「1・2年生活部会」（テーマ：あそびランド、昔あそび）、「3・4年総合部会」（テーマ：ピオトープ）、「5・6年総合部会」（テーマ：平和学習、HPづくり）に分かれ、児童と大人がにこやかにそして真剣に協議しました。保育園児の楽しませ方を園長先生に尋ねたり、山口むしの会の方から生き物の特徴等について専門的な情報を聞いたり、二俣瀬の歴史や地元事業所の特色について関係者から説明してもらったりと、テーマに合わせた専門家が集い、的確にアドバイスしていただきました。

二俣瀬地区ならではの地の利も生かし地域人材も生かすことで、児童は視野を広げ思いを伝え合うことができました。

11月10日(日曜日) 神原地区文化祭で小学生ボランティアが地域貢献！
神原小学校



神原小学校では、1年生から6年生までの33名が神原地区の文化祭で小学生ボランティアスタッフとして活躍しました。ゴミの分別をしたり、子ども会ブースの手伝いをしたり、ポケットティッシュを配って「ポイ捨て」防止の呼びかけをしたりと力を発揮していました。

日頃は、地域の方から支援を受けることが多い子どもたちですが、自分たちにもできることを考えて、実際に活動に移しその活動を周囲の人々に認められることで、自信や自己肯定感が高まっています。地域行事に参加するだけでなく、小学生ボランティアとして運営などにも取り組むことは、児童にとって地域の一員としての意識をさらに強める経験となることでしょう。

11月10日(日曜日) 鵜の島地区のコミュニティ秋まつりで大活躍「鵜の島子ども隊」！
鵜ノ島小学校



鶺鴒の島地区のコミュニティ秋まつりが、鶺鴒ノ島小学校で開催されました。秋まつりに合わせて参観日を行い、終了後に秋まつりがスタートするとあって、多くの児童や保護者が参加しました。全校児童の作品展を体育館で行い、5・6年生の出店、児童有志によるステージ発表など盛りだくさんの内容でした。

特に、5・6年生は秋まつりで地域を盛り上げようと、この日に向けて、総合的な学習の時間を使い、道具の準備やルールの話し合い、景品づくり、ポスター制作など、様々なアイデアを出し合い、工夫して取り組んできました。当日は、「鶺鴒の島子ども隊」の黄色のビブスを着て、地域の人や参加した人に喜んでもらえるようにと、5年生は「射的」と「ブラックボックス」を、6年生は「ダーツ」と「ボーリング」、「じゃんけん大会」を行いました。

「鶺鴒の島子ども隊」としての活動を通して、クラスの仲間と協力することや地域の方々と交流することを経験し、自己有用感や地域貢献意識、感謝の気持ち、表現力・創造力などを高めることができました。

「鶺鴒の島子ども隊」の活動を様々な取組にも広げられるよう、また「鶺鴒の島子ども隊」での経験が、藤山中学校の「ヤング自治会」や「地域元気応援隊」の活動に繋がっていくことを期待しています。

11月8日(金曜日) 一足早く中学生気分を体験！(6年小中交流授業)
小羽山小学校



小羽山小学校と新川小学校の6年生が桃山中学校に集まり、中学2年生のお兄さん・お姉さんとの小中交流授業が行われました。

来年度から同級生になる新川小学校の6年生と先輩になる桃山中学校2年生に囲まれ、期待と緊張が入り混じった表情の6年生でしたが、生徒会を中心としたオリエンテーションや中学校の学習内容を織り交ぜた学習も体験し、中学校の雰囲気味わうことができました。

小中連携として取り組んでいる中学校区での小中交流授業は、小学生の中学進学への不安を少しでも和らげ安心感と希望をもつことができ、いわゆる中1ギャップの解消に向けた小学校から中学校へのスムーズな移行の一助となっています。

10月18日(金曜日) 小学校6年生も学ぶ 中学校1年生の地域探訪学習発表会！
川上中学校



川上中学校では、1年生が9月27日に行った地域探訪学習の発表会を体育館で行いました。各グループで作成したプレゼンテーションを保護者の方の他、川上小学校の6年生にも来てもらい、しっかり聞いてもらいました。

今年度のテーマ「地域の魅力発信」に対して、12グループの生徒たちが川上地区に根差した商店、温泉等に足を運び、仕事や川上地区への思いをインタビューしました。川上地区にお店を出すメリットや仕事のやりがい、難しさを感じ、中にはこういう大人になりたいとあこがれをもった生徒もいました。地域の人と触れ合う中で、普段登下校で何気なく見ていたお店が、自分との関わりの中で見直されるという新しい発見をしました。発表する中学生の姿から、小学6年生も多くのことを学び、感じたようです。

地域探訪学習を通して、川上小・中学校地域連携カリキュラムのめざす子ども像「相手の立場を認め、相手の話を聞く意識の高い子ども」にしっかりと近づいている生徒たちです。

10月8日(火曜日) 1・2年生が地域の花壇整備のお手伝い！
吉部小学校



吉部小学校では、1・2年生が学校近くの地域花壇「夢ゆめガーデン」に花摘みを兼ねて花壇整備のお手伝いに行きました。地域の方と一緒に新しい花壇を作ったり、花の名前を教わりながら花を摘んだりしました。

この取組は、社会教育推進委員会との協働活動として、地域学校協働活動推進員の方の協力により実現したものです。十分なお手伝いとまではいかなかったようですが、子どもたちは楽しみながら活動していました。

今後は、全校児童が社会教育推進委員会委員の方や地域の方々と協働して、「夢ゆめガーデン」の花壇整備に取り組む予定です。子どもたちの地域貢献が身近なところで展開されています。

**10月3日(木曜日) 中学校3年生と小学校1年生の交流がありました！
西宇部小学校**



西宇部小学校で、厚南中学校の3年生と西宇部小学校の1年生の交流活動がありました。この活動は、4年間継続しており、厚南中学校の生徒は、各々の出身校である西宇部小学校と厚南小学校とに分かれて訪問します。小学生にとっては身近に中学生を感じ、コミュニケーション力や社会性を育むことを、中学生にとっては小さい子を思いやる優しさの涵養を目的としています。子どもたちは、一緒に校歌を歌ったり、猛獣狩りゲームなどで交流したり、また折り紙で紙飛行機やパクンチョなどの折り方を教えてもらいながら、楽しいひと時を過ごしました。中学校のお兄さん、お姉さんはとてもやさしく接してくれたので、1年生はとても喜んでいただけました。

義務教育の始期と終期の交流は、子どもたちの豊かな心を育む素晴らしい取組であり、中学生たちにとっても9年間の学びや育ちを意識する機会にもなったことでしょう。

**9月30日(月曜日) 昼休みコンサート開催！
恩田小学校**



恩田小学校では、昼休みコンサートを6年以上も継続して開催しています。宇部市の『コミスクだより2019.5月号』を見ると、恩田小学校運営協議会委員からの提案で始まり、ヴァイオリン、ピアノ、琴、尺八等の生演奏やヒップホップアーティスト等の生実演と一緒に歌ったり踊ったりできる催しが開かれていました。

今回は、おひさまクラブ主催で、地域のトランペット演奏者の方が、子どもたちの楽しめる音楽を披露してくださいました。たくさんの児童が参加し、手拍子を打ちながら演奏を楽しみました。

昼休みコンサートについては、「恩田小学校だより(7月号)」や、「恩田だより(6月号)」、「恩田小ホームページ」等にも掲載されています。地域に広く周知することも、協働活動を継続実施する秘訣ではないでしょうか。

9月26日(木曜日) 地域の皆さん、学校で「学ぼーよ」！
上宇部小学校



上宇部小学校では、「学ぼーよ」が実施されました。平成27年度から開始された「学ぼーよ」でしたが、コロナ禍には中断していました。「学ぼーよ」とは、地域の方などの大人が学校の授業に児童と同じ（いち）学習者として参加し、一緒に学ぶという取組です。今回は、1年1, 2組の道徳科「ありがとうがいっぱい」の授業に4人の大人が参加しました。参加された地域の方からは、「とにかく楽しかった。」「子どもたちと学習して、『ありがとう』を言っていないといけない、自分自身反省した。自分たちが学んだ。」という感想がありました。また、「先生たちは事前の授業準備を丁寧にされており、子どもたちが実際にありがとうと言いたくなるような指導をされている。」と言った声も聞かれました。この「学ぼーよ」は、大人の学び場となり、学校の教育活動への理解につながる機会にもなっています。今後も、上宇部小学校では、色々な学年の授業を行う予定です。地域の皆様、ぜひ足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

9月18日(水曜日) 「我が家のレシピ☆コンテスト」の受賞作品が決定！
厚南小学校



厚南小学校では、朝食を摂らない子どもたちが多いという課題を解決するためのアイデアとして、朝食レシピのコンテストを独自に企画・実施しています。今年度は9回目を数え、小学生171名、中学生23名（合計194名）の応募があり、第3回学校運営協議会において、第一次審査を通過した25の朝食レシピの審査を行いました。どれも時節等を踏まえたアイデアを駆使したものばかりで、審査員皆が選ぶのに大変頭を悩ませていました。審査の結果、我が家のレシピ大賞に「いそがしい朝は時短でマグカップリゾット」（厚南小5年）、厚南小学校運営協議会会長賞には「残りもので簡単おにぎらず」（厚南中2年）が選ばれました。9月28日（土）の人権教育参観日の日に表彰式があり、『レシピ大賞』と『学校運営協議会会長賞』の2名が表彰されました。このコンテストに小・中学生から多数の応募があったことから、児童生徒の関心が高くなっており、素晴らしい取組に発展していることが分かります。11月18日に行う第2回宇部市地域学校協働活動研修会では、この取組を発表してもらうことにしています。

9月10日(火曜日) 「川上アカデミー」始めました！
川上小学校



地域の方や保護者の方が川上小学校に来られて、子ども達と一緒に様々なことを学んでいただく活動として、「川上アカデミー」を開くことになりました。2学期から、メールやホームページに載せていきたいと思っております。内容を2ページになり、興味のある内容や気になる学習がありましたら、ぜひご来校いただき、子ども達と一緒に活動していただけたら嬉しいです。お友だちを誘って川上小学校にいらしゃいませんか？

例えば

日	曜	時刻	学年	参加対象	学習内容	場所	備考
3	木	1	8:30-11:15	1401	体育テスト(上体部)	体育館	水筒・帽子があるにお願いします。
4	木	1	8:30-9:15	601	算数 差への取り組み合わせ	6年各教室	「タカス」を半分ずつに切り、2カ所両面テープで固定して活動。
12	木	3	10:40-11:25	400	総合 陸上・ソフトボール どん排球お祭り	4年教室	お祭り
13	金	3	10:25-11:10	全学	6年生を中心とする	各教室	
18	木	1	8:30-10:05	1402	英語 水・おしゃべり	運動場	水筒・帽子があるにお願いします。
24	木	5	13:20-14:00	1402	英語 あやがひのくまのよう	音楽室	「タカス」を持って、リボンも準備をお願いします。

上記の表から、子ども達と一緒に学んでみたいなど思われた内容はあったでしょうか。これは、一例です。このような表をホームページにも載せていきます。様子を見に来られるだけでも構いません。ぜひ、お友だちを誘って来て下さい。子ども達も待っています。

その他にも

- ＊お友だちとおしゃべりしたり
- ＊休み時間に子どもたちと遊んだり
- ＊花壇のお手入れをしたり
- ＊学校の中を散歩したり
- ＊カメの世話をしたり
- ＊川上小でのんびり時間を過ごしてみませんか？



防災対策として
 ①来校時には、事務室でも駐車していただく
 ②保護者の方から希望の活動メニュー(保護者の職)を利用させていただきます。

お問い合わせ 川上小 教頭 本田 330-6610

川上小 ホームページ



川上小学校では、地域の方や保護者の方が学校に来られて、子どもたちと一緒に様々なことを学んでいただく活動として、「川上アカデミー」を開くことになりました。日時や内容を記した計画表をメールやホームページに載せて案内します。授業参加だけでなく、学習の補助・見守りや体力テストの測定補助、お友達とおしゃべり、休み時間に子どもたちと遊ぶ、花壇の手入れ、学校の中を散歩、カメの世話などなど。地域の皆さんに、川上小でのんびり時間を過ごしていただきたいと考えています。小学校のホームページや川上ふれあいセンターを通じて広報し、多くの参加者を募集しています。

9月5日(木曜日) 防災リーフレットと児童発信ページをつくりました！
原小学校



原地区 防災について

～ 地域の人の命を救おう ～



わたしたち原小学校5年生は、4月から様々な災害について学び、それらの災害から身を守るために、どのような行動をすればよいか考えてきました。

そうした中で、自分たちだけでなく、原地区に住むすべての人の命を守りたいと考えるようになりました。

このホームページがその助けになれば、うれしいです。

2024. 8. 28
原小学校 5年生作成

地域(原地区)の取り組みについて

原地区自主防災会

昭和17年に台風で堤防が壊れて水が押し寄せ、たくさんの方が亡くなりました。この台風で死者288人のかたがごとくならぬように、この台風のごとく2004年に「自主防災組織」というものが作られました。自主防災組織とは、地域住民が中心となり、「自分たちの地域を自分たちで、守る」ために立ち上げられる組織です。原地区にも、自主防災会というものがあり、中心となって以下のような「防災」への取り組みを進めています。

- 緊急連絡網の活用
- 防災訓練
- 緊急避難場所の開設・運営
- 防災訓練
- 防災者への避難支援
- 防災用具の準備・管理
- 防災士による防災計画の策定

防災フェスタ

原地区では、毎年9月1日の防災の日に合わせて「防災訓練」が行われています。2023年9月、親子で参加し、楽しみながら防災意識を高めてもらうこと、従来の訓練形式ではなく、初めてイベント型で原地区防災フェスタが開催されました。原小の児童や保護者の方もたくさん参加して、防災の日だけでなく、防災の日以外の防災意識を高めることができました。みなさんぜひ参加してみてください。地域の力になっていくことが一番の防災となります。

原小 原小学校ホームページ

みんなで助け合おう！



原小学校の5年生は、総合的な学習の時間に防災について学習したことをリーフレットにまとめました。

リーフレットは手に取りやすい三つ折りサイズで、の山陽小野田市や原地区の防災士の方から、原地区の開作や過去の災害の様子などの話を聞き、自分たちが質問したり調べたりしたないようがとても分かりやすく整理されています。

ふれあいセンターや郵便局、コミュニティ推進協議会会長さんに手渡しすると、「いいのができたね」と誉めていただきました。地域の人に自由に持ち帰ってもらい、原地区の防災についての意識を高めてもらう一助になればと思います。

さらに、この内容をもっと広くしていただくため、学校のホームページに児童発信リンクを作り、積極的に情報を発信。「原地区に住むすべての人の命を守りたい」との子どもたちの熱い思いが強く感じられます。

地域に関わる防災学習の成果を地域に還元する取組は、お互いの命を守るための大切な取組であり、地域の自助・共助につながることでしょう。

8月22日(木曜日) サマースクールで高校生から学習指南！ 厚南中学校



厚南中学校では、サマースクールを開催しており、中学3年生の学習のサポートを宇部鴻城高校の先輩達にしてもらっています。サマースクールの開催日は、まず中学校が候補日を上げ、その中から高校が選択する形で日程調整されています。

今回は、2時間の学習をほぼマンツーマンで集中して学習することができました。中学生からは、「分かるまで丁寧に教えてくれて勉強がすごくはかどりました。感謝しています。」という声があがりました。

また、地域の行事でボランティア活動をする際にも、宇部鴻城高校生ボランティアと一緒にすることがあるそうです。両校の連携がいろいろな取組へ広がることで、地域づくりの活性化につながっていくことでしょう。

8月20日(火曜日) 人気沸騰！ シニアスマホ教室 藤山中学校



藤山中学校では、「地域元気応援隊」として生徒が地区のボランティア活動に積極的に取り組んでいます。鶺の島地区でも、清掃活動や地区祭りなど様々なボランティア活動を通して小学生や地域の方等との交流も盛んです。

中でも、老人クラブ連合会「むつみ会」主催で、年間2回程度実施されているシニアスマホ教室は大人気です。「地域元気応援隊」の藤山中生徒が講師を務め、マンツーマンで教えてくれます。おじいちゃん、おばあちゃん世代の質問にやさしく答えたり、一緒に考えたりしてくれるのでリピーターもいます。

藤山地区で開催していたスマホ教室を参考に、鶺の島ふれあいセンターが藤山中とむつみ会をつないで教室が開催され始め、3年目を迎えました。他地区でもぜひ参考にさせていただきたい事例です。

(地区だより「鶺の島だより」10月号から)

**8月18(日曜日) コミスククリーンアップ&ウォーターフェスティバル！
藤山小学校**



8月18日(日曜日)に、6年生によるプール掃除とその他学年の親子で草抜き作業を行うコミスククリーンアップが行われました。さらに、今年度は作業の後に、初の取組となるウォーターフェスティバルが開催されました。これは、地域の子ども会と育成会の方々によって企画された、マイ水鉄砲を使用し、相手のビブスをめがけて水をかけるチーム戦です。参加した児童は、暑さも忘れ夢中になって楽しんでいました。

汗をかいた除草・清掃作業の後に子どもたちが楽しめる活動を仕組むことで、作業に参加する親子も激増し、おかげで校内がきれいになりました。子どもたちも学校も保護者もハッピーになれる活動を、今後も継続できるように工夫をこらしていくそうです。ナイスアイデアです！

8月3日(土曜日) “エコな“恩田ふれあい夏まつり！
常盤中学校



常盤中学校の生徒たちが「ときわ学」の取組の一環で環境に配慮したエコな夏まつりを地域に働きかけようと、まず夏まつりのPR動画やチラシを作りました。PR動画は恩田ふれあいセンターで常時放映され、夏まつり当日も会場で放映されました。チラシは対象に合わせて数種類作り、小学校や地区内のスーパーなど各所に配布し、「恩田だより8月号」にも掲載されました。夏まつり当日は式典で生徒たちが『エコ宣言』し、10年後も持続可能なエコなおまつりをめざして、ペットボトルを水洗いするなど容器回収ボランティアとしてリサイクルに取り組みました。

地域の大人たちは生徒に任せながらも生徒をそばで見守り活動を応援していました。生徒は地域のサポーターに、地域は生徒のサポーターにと、「ときわ学」3年目の活動は常に進化しています。今後は、文化祭や宇部まつりでパネル展示が行われる予定です。(地区だより「恩田だより」8・9月号から)

8月3日(土曜日) 「ふるさと愛し隊」、大活躍！
上宇部中学校



上宇部中学校では生徒たちが「ふるさと愛し隊」となって、地域活動に主体的に貢献しています。

7月28日(日曜日)の上宇部防災教室では、自主防災会の方々と一緒に約30名の生徒たちは自助・公助・共助の意識を高めました。会の皆様のご厚意で昼食に手作りの豚汁をいただき、最後にすいか割りも体験しました。

8月3日(土曜日)の琴芝夏祭りには約40名の生徒が参加しました。今年は、生徒が『上宇部中 コーナー』の企画・運営を任せられました。ボランティア活動を、「指示されたことを行う」だけでなく、「目的に応じて自ら考え、行動する」活動に重きを置き、地域行事に生徒が『参画』しています。来場者に喜んでもらいたいと魚釣りやスライムを利用したもの等を作製し、その甲斐もあって当日大好評を得ました。

地域の方々のおかげで、生徒たちは貴重な学びやふれあいの時を過ごせています。企画・運営を任せ『参画する』体験は、プレゼン力やコミュニケーション能力を育み、生きる力となっています。

**8月3日(土曜日) 琴芝夏まつりに5・6年生が参加！
琴芝小学校**



8月3日(土曜日)に琴芝ふれあいセンターで行われた夏まつりに、琴芝小5・6年生の有志が参加しました。これは、5月の運動会で5・6年生の表現「琴小ソーラン」をご覧になった地域の方から、夏まつりに出てもらえないかというオファーがあったことがきっかけです。そのことを5・6年生に投げかけたところ、36人の児童が参加したそうです。地域の皆さんに喜んでもらい、大きな拍手をもらった児童たちはとても満足そうな顔をしていました。運動会での表現発表が夏まつりへのオファーとなり、それに応えた子どもたち。その元気いっばいのパワーが地域を盛り上げ、子どもたちにも達成感や自己有用感をもたらしたことでしょう。

7月22日(月曜日)～8月23日(金曜日)
夏休み中の学習の場(神原ふれあいセンター)を提供！
神原中学校



夏休み中の生徒たちが、家とは違った環境で集中して勉強に取り組むことができればと考え、神原ふれあいセンターを中学生の学習の場として開放しました。神原中学校と相談して開放日を決定し、家庭へも案内文を配付。開放日には、1～5名の生徒が来館し、自分のペースで学習に励んでいました。

今後は、地域の大人の見守りサポートを受け、テスト期間中の夕方や土日の開放や、新たにWebアプリを活用して、簡単に予約・登録できるようにすることも検討中です。地域活動の拠点であるふれあいセンターが、生徒の学びの場となることで、新たな交流が生まれます。学校・ふれあいセンター・地域の仕組み作りがアプリで簡易にできれば、より持続可能な活動になることでしょう。(地区だより「神原だより」8月号から)